



内閣官房内閣情報調査室

〒100-8968 東京都千代田区永田町1- 6 -1 内閣府庁舎6階
TEL 03(5253)2107(採用専用)
TEL 03(3581)5083(直通)

内閣官房 内閣情報調査室

CABINET INTELLIGENCE and
RESEARCH OFFICE



採用案内
2019

少数なれば精鋭たれ

—内閣情報調査室を志望する皆さんへ—



内閣情報官

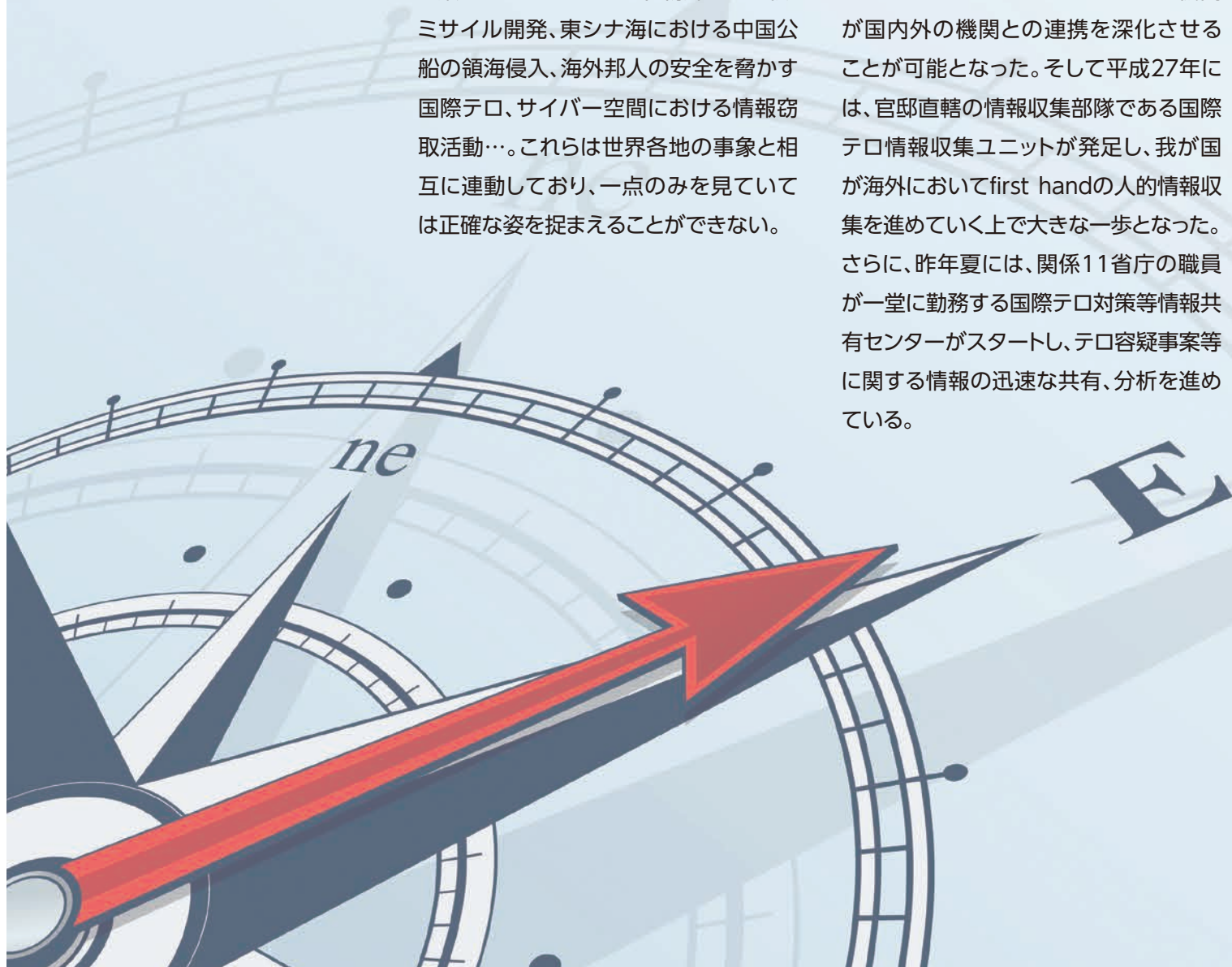
北村 滋

Shigeru Kitamura

内閣情報官は、内閣法に基づき、「内閣の重要政策に関する情報の収集調査に関する事務」を掌理することとされており、我が国政府の最高意思決定権者である内閣総理大臣を始めとする官邸首脳及び政策部門に対して、その道のプロたちが収集・分析したインテリジェンスを適時に報告するとともに、そのために必要となるインテリジェンス機能の強化を推進し、内閣を直接支える任務を担っている。

我が国の安全保障をめぐる環境は一段と厳しさを増している。北朝鮮による核・ミサイル開発、東シナ海における中国公船の領海侵入、海外邦人の安全を脅かす国際テロ、サイバー空間における情報窃取活動…。これらは世界各地の事象と相互に連動しており、一点のみを見ていては正確な姿を捉まえることができない。

そのような厳しい環境に対応するため、近年、我が国の安全保障体制の強化が進められており、インテリジェンス機能の強化はその中の極めて重要な柱となっている。まず国家安全保障会議 (NSC) が発足し、安全保障法制が整備されたことにより、政策部門の必要とする情報を提供するインテリジェンス部門の重要性が一層明確になった。次に、安全保障上の重要機密情報を適正に管理するための「器」とも言える特定秘密保護法が施行されたことにより、インテリジェンス機関が国内外の機関との連携を深化させることが可能となった。そして平成27年には、官邸直轄の情報収集部隊である国際テロ情報収集ユニットが発足し、我が国が海外において first hand の人的情報収集を進めていく上で大きな一歩となった。さらに、昨年夏には、関係11省庁の職員が一堂に勤務する国際テロ対策等情報共有センターがスタートし、テロ容疑事案等に関する情報の迅速な共有、分析を進めている。



また、平成13年に設置された内閣衛星情報センターにおいて運用する情報収集衛星は、我が国の重要な情報収集手段に成長しており、今後、10機体制の整備等に向けた各種検討に取り組む必要がある。さらに、サイバー空間における脅威の増大に対処するため、我が国としても、カウンター・サイバーインテリジェンス能力を省庁横断的に高めていかなければならない。

現在、内閣情報官として、多忙を極める総理日程の中、概ね週2回の定例報告の他、必要な場合には臨時の報告を行っている。そのため、当室のスタッフと力をあわせ、常にアンテナを高くし速やかに情報収集するとともに、必要な情報が集約されているか、情報の分析は的確か、報告の直前まで日々苦勞しながら準備に注力している。

インテリジェンスは縁の下の力持ちである。総理を直接支え、陰ながら我が国の安全の確保に貢献する誇りと使命感を得ることができる職務である。複雑化する脅威を前に、柔軟かつ的確な情報収集・分析を行うためには、画一的ではない多様な知識・経験を持った集団となることが求められている。少数なれば、精鋭たれ。新たな諸課題にチャレンジする進取の気概を持つ諸君が内閣情報調査室の一員に加わることを願ってやまない。

Index

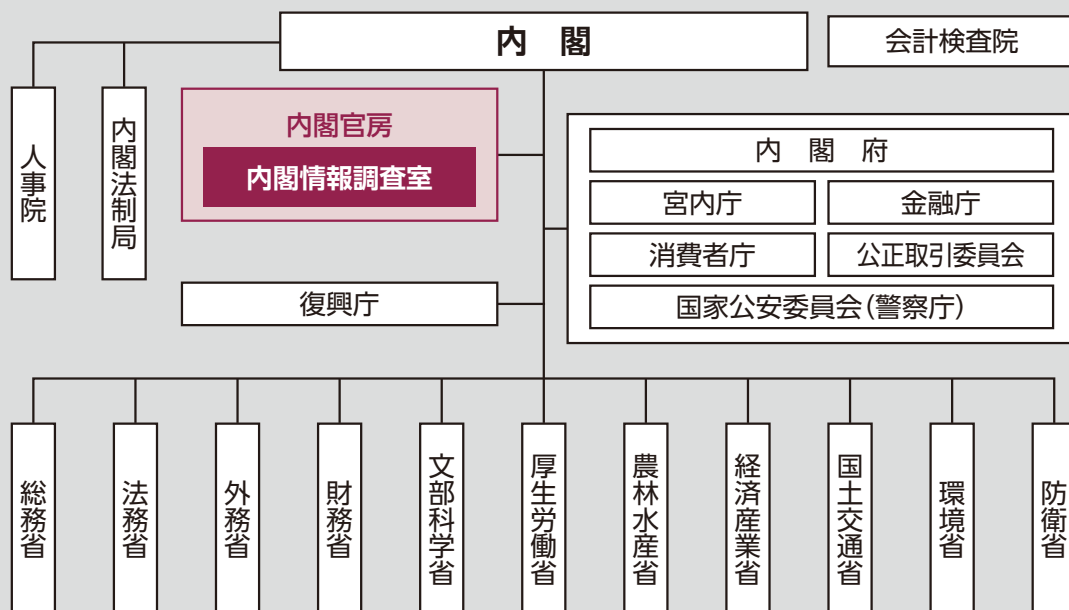
■ 内閣情報調査室を志望する皆さんへ	01
■ 内閣の総合戦略機能、内閣官房	03
■ 内閣を「情報」で支える内閣情報調査室	04
■ 「インテリジェンス」を紡ぐ	05
■ 総理の目と耳としての役割 ～政策決定プロセスの支援～	06
■ 部門紹介 ～職員の声～	09
■ 職員の日	11
■ 内調職員による対談	13
■ 両立支援(ワークライフバランス)制度	16
■ 若手職員の働き方	17
■ キャリアステップ	19
■ 待遇・制度、採用について	20
■ 2019年度採用スケジュール	21
■ 内閣情報調査室の歴史と発展	22



「内閣官房」は、内閣*の補助機関です。内閣の首長たる内閣総理大臣を、直接補佐・支援する、内閣の「総合戦略機能」を担っています（内閣法第12条）。

※内閣：内閣総理大臣と国務大臣で組織

中央省庁機構図



官邸での会議（内閣広報室提供）

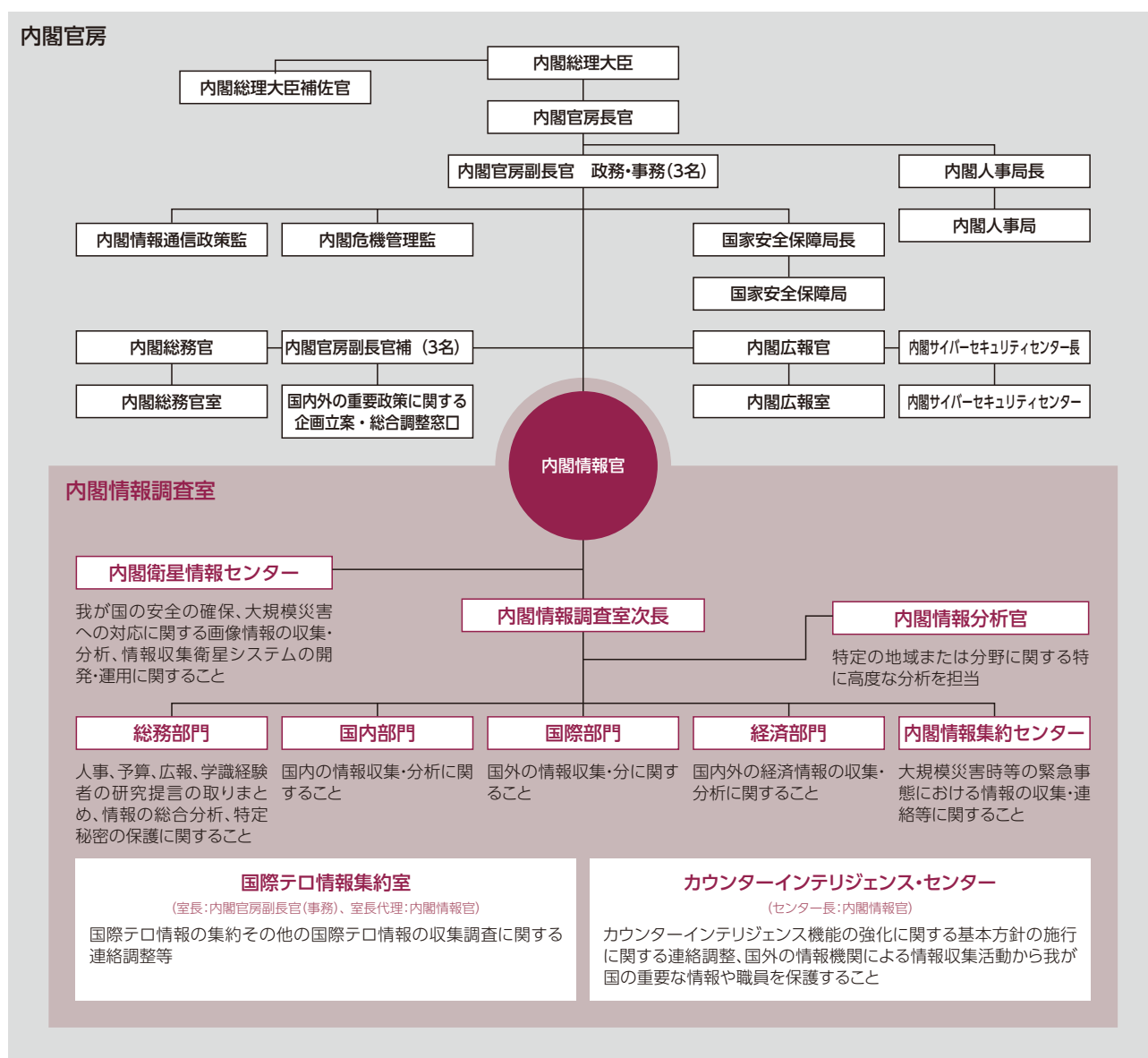


国家安全保障会議（メイ首相来日時）

内閣を「情報」で支える内閣情報調査室

04

内閣官房の職務のうち、内閣情報調査室が担当し、内閣情報官が掌理する主な事務は、「内閣の重要政策に関する情報の収集及び分析その他の調査に関する事務」と定められています(内閣官房組織令第4条)。



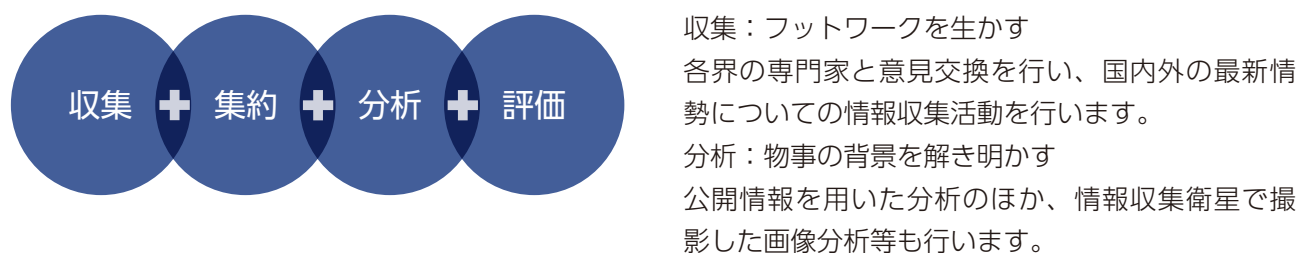


内閣情報調査室の業務は、一般的な行政事務とは趣が異なります。
タイムリーで質の高い「情報(インテリジェンス)」を紡ぎ出すことが、私たちの仕事です。

私たちを取り巻くさまざまな社会情勢や
重要課題について、経緯の調査・現況の
把握・今後の動向の分析を、客観的・中立
的・多角的な観点から行います。



内閣情報調査室における「インテリジェンス」の創造

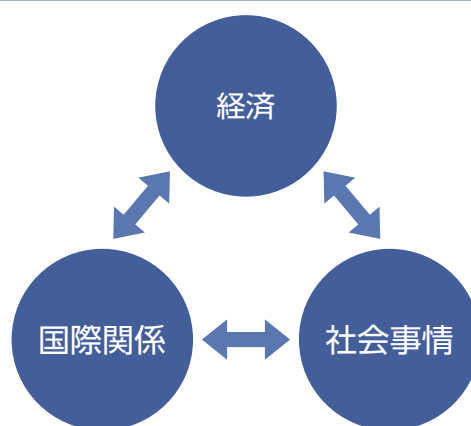


当室の業務は、時に「新聞記者」「学者」「商社マン」といった言葉になぞらえられます。こうした例えは、私たちの業
務がいわゆる役所的な型にはまらないものであることを言い表しているのかもしれませんが。

縦割りにとらわれないオールジャパンの視点

特定の政策や分野に縛られない“オールジャパン”の
視点から業務が行えることは、当室の大きな特徴のひ
とつです。

内閣情報調査室は、「内閣の重要政策に関する情
報」を取り扱っています。他の官庁がそれぞれの掌理
する範囲内の情報を取り扱うのに対し、当室では特定
の事項に限定されることなく、幅広い事象を対象と
して情報の収集・分析を行っています。





インテリジェンスは、政策決定者の意思決定や判断を支援するために提供されます。

政策決定者が国家の進むべき方向性を決定する際、背景事情やリスク・利益といった物事の見通しがなければ、正しい判断を行えません。インテリジェンスとは、いわば国家という大きな船が航海する上での不可欠な海図と言えます。

インテリジェンスの提供

内閣情報調査室が提供するインテリジェンスは、様々な場面で国の政策決定を支援しています。

内閣総理大臣への定例報告

毎週定例の内閣総理大臣への報告を行っています。重要かつ緊急を要する情報については随時報告されます。総理の目と耳としての役割を果たし、官邸の柔軟かつ機敏な政策決定を支援しています。

国家安全保障会議(NSC)への参加

会議に提供された情報は、国家安全保障局により、政策立案等のために活用されています。



「情報部門」と「政策部門」

情報と政策は、分離しつつも密接にリンクしています。

政策決定プロセスを支援する「情報部門」と、インテリジェンスを用いて実際の政策決定を行う「政策部門」とは、明確に立場が区別されます。しかし両者は分断されることなく、インテリジェンスの要求と提供を繰り返し、有機的なインテリジェンス・サイクルを形成します。



情報コミュニティ省庁との連絡調整

内閣情報調査室は、情報コミュニティの「要」（取りまとめ）としての役割を果たしています。

当室は、官邸の政策担当者と情報コミュニティ省庁、両者をつなぐ連絡調整の役割を担っています。閣議決定に基づき設置された内閣情報会議、合同情報会議、情報収集衛星推進委員会及び情報収集衛星運営委員会を開催する他、当室が中心となって関係省庁との連絡会議を随時開催し、いわば「オールジャパン」で内閣の政策判断を支援する体制が構築されています。



国際テロ情報の収集・集約体制

国際テロ情報収集・集約幹事会

国際テロに関する情報及び情報関心の共有、焦点や優先度について集約

- > 議長は、内閣官房副長官（事務）
- > 構成員には、内閣情報官のほか、内調幹部職員が含まれる

内閣官房 国際テロ情報集約室

幹事会の事務局として、国際テロ情報の集約その他の国際テロ情報の収集調査に関する連絡調整等を実施

- > 室長は内閣官房副長官（事務）、室長代理は内閣情報官
- > 室員は、関係省庁幹部級職員及び内調職員により構成

国際テロ対策等情報共有センター

11のインテリジェンス省庁と連携して、テロ情報の共有や分析を実施
> センター長以下、内調職員により構成



国際テロ情報収集ユニット

4名の幹部級職員の下、東南アジア、南アジア、欧州、中東、北・西アフリカの5地域を対象に、国際テロ情報を収集

政府においては、邦人の生命及び身体の安全確保のため、官邸直轄で国際テロ情報の収集・集約を行う体制が整備されています。

内閣官房に置かれる「国際テロ情報集約室」は、官邸幹部や関係省庁の情報関心の取りまとめ等を行い、これに基づき、外務省に置かれ内閣情報調査室の職員で構成される「国際テロ情報収集ユニット」は、いわば官邸の直轄部隊として情報収集を行っています。

また、平成30年8月には、「国際テロ情報集約室」の中に「国際テロ対策等情報共有センター」が設置され、国際テロ情報の収集・集約体制が更に強化されました。

コラム

【国際テロ情報収集ユニット勤務経験者】

通常の霞ヶ関では経験できない業務がここにはある

国際テロ情報収集ユニットは、テロの分野において、世界各国の情報機関と同じフィールドで仕事をしています。

ユニットは、①邦人関連テロ発生時に備えた各国の治安・情報機関との迅速な協力の確立、②我が国としてのファーストハンドの情報収集に取り組んでおり、担当官には高い意欲や専門性が求められます。ユニットが収集したテロ情報は政府内の関係機関に速やかに共有され、その情報を基にテロの未然防止のための施策が講じられています。ユニットの業務は、決して表舞台に出るものではありませんが、日々使命感や誇りを感じながら業務に当たっています。

ユニットは走り始めたばかりですが、こうした若い組織だからこそ、

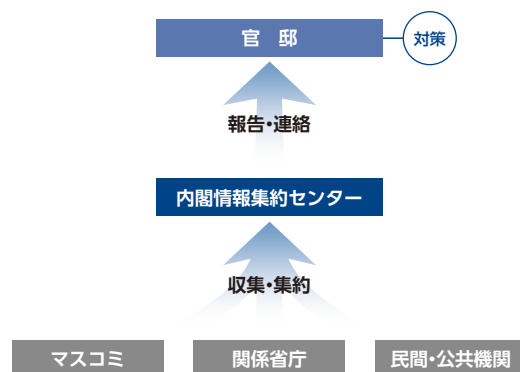
躍動感ある勤務ができます。職員はそれぞれが専門家として尊重し合い、小所帯ゆえに風通しが良く、働きやすい環境です。また、海外勤務があるほか、国内でユニット関係の業務を行う場合でも、数多くの海外出張を行うなど、通常霞ヶ関では経験出来ない特殊な経験を積むことができます。

残念ながら、映画や小説から想像するような派手な仕事ではありませんが、邦人の安全確保のために誰かがやらなければならないものであり、内調職員は、他省庁の方と比して、ユニット関連業務に関われる機会が多いと思います。興味のある方は、ぜひ内調の門を叩いてください。

緊急事態の初動対応

災害や安全保障に関わる情報を、当室から官邸幹部に速報します。

内閣情報集約センターでは、国内外の緊急かつ重要な情報を24時間体制で収集・集約しています。各省庁・内外の通信社との専用回線等のほか、災害発生時には防衛省・警察庁等のヘリコプターから映像をリアルタイムで受信するシステム等を備えています。



内閣衛星情報センター ～情報収集衛星の開発・運用～

内閣衛星情報センターは、外交・防衛等の安全保障や大規模災害への対応等の危機管理のために必要な画像情報の収集を行うため、情報収集衛星の開発・運用を行っています。情報収集衛星によって得られた画像情報は、内閣総理大臣・内閣官房長官への報告や、情報コミュニティへの報告書の作成・配布等、政府の重要政策の決定や情勢判断に際し、活用されています。



情報収集衛星 (Information Gathering Satellite) について

- 光学衛星とレーダ衛星を運用
- 4機体制から10機体制の確立を目指して

(情報収集衛星画像の活用例)

我が国の安全保障や重要政策の決定に資する他、右のような活用もされています。



平成25年、フィリピン台風被災状況推定地図(タクロバン周辺)を作成し、公表しました。



平成27年、台風第18号による大雨に係る茨城県常総市の被災状況について、公表しました。

最先端衛星の研究・開発の推進

研究・開発

課題例



研究開発の主な取組

- ① 衛星が撮像対象の上空を通過するのは瞬間的
- ② 1シーンで撮れる範囲は限定的
- ③ 情報を要求してからデータを得るまでに時間を要する
- ④ 情報の量の増加
- ⑤ 情報の質の向上
- ⑥ 即時性の向上

判読・分析

衛星画像を基にした高度な情報分を行ないます。

運用

① 計画の立案

要求に基づき作成した撮像計画に従って、衛星の最適な管制計画を立案し、コマンドを作成

② 衛星との通信

衛星管制のためのコマンド送信、撮像データの受信を行います。

③ 画像の処理

受信した撮像データを処理します。

④ 画像の判読・分析

専門的訓練を受けた分析官が、処理された画像の判読・分析を行います。

⑤ 報告書の作成

判読・分析した結果は、報告書としてまとめます。

⑥ 報告書の配付

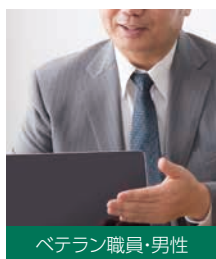
撮像要求に応じて、報告書を利用省庁に配付します。

内閣情報調査室には、様々な情報の専門家及びその卵がいます。

様々なフィールドで新たな課題に挑戦し、組織をリードし続ける6名の職員の声をお届けします。

国内部門

国内情勢に関する情報の収集・分析



ベテラン職員・男性

国政の中心で、情報のプロと対峙

私は国内部門という国内系の情報を取り扱う最前線で内調人生の多くを過ごしてきました。国内部門の仕事というのは、新聞の政治面や社会面に書かれている内容ほぼ全てを網羅すると思って下さい。情報収集の対象は、国政その他各種の主要課題に精通、あるいは影響力を持つプロの方々です。こういったプロを相手に戦うための必要な資質として、第一に人と接するのが好きであるということ、第二に人と誠実かつ真摯に向き合えること、が必要だと思っています。仕事をしていく中でこれらを買っていくのは決して簡単ではありませんが、強い意志さえあれば、誰もが成し遂げられるはずです。我々の仕事は他の省庁とは異なり表に出ることはほとんどないですが、時の官邸に必要な情報を収集できた実感できた時、自分の仕事に計り知れない誇りとやりがいを感じることができます。志ある皆さんにお会いできる日を心より楽しみに待っています。

世間に対する「アンテナ」磨く

国内部門での現在の私の業務は、国内情勢に関する公開情報を収集・分析し、資料を作成することです。例えば、国会で新たな法律が成立したり、外交問題で大きな動きがあったりした際など、世の中で起きた出来事に対し、各種メディアがどのような論調で報じたか、世間がどのような反応を示しているかを把握し、集約することも業務の一つです。官邸からはイレギュラーなタイミングや形で、資料のリクエストがやってくることもあります。そのリクエストに素早く的確に対応するためには、基礎資料を漏れなく、正確に作成しておくなどといった、日々の地道な積み重ねが大切です。ダイナミックさや刺激が少ないように感じられるかもしれませんが、内調の情報機関としての機能を陰から支えていることに日々誇りを感じています。

内調での社会人人生にご興味を持っていただけた方は、ぜひ当室を覗きにきていただけると嬉しいです！



若手職員・女性

経済部門

経済に関する情報の収集・分析



若手職員・男性

政策決定の礎を担う

私は現在、経済部門において、我が国の通商政策、とりわけエネルギー安全保障に関する情報の収集・分析を担当しております。目まぐるしく変化する国際情勢がエネルギー資源の乏しい我が国にどのような影響を及ぼすのか、また、どのような政策が求められるのかについて、日々分析しております。

内調の仕事とは、畢竟、様々な情報を収集し、分析を加え、インテリジェンスを紡ぎ出していく作業です。こうして作成された資料は、適時適切に官邸へ報告され、時には情報官からフィードバックを頂くことさあります。自身が作成した資料を政府の最高意思決定権者である内閣総理大臣が目を通す。これは非常に誇らしいことであると同時に、若手の頃からこのような経験ができる内調という職場の特別さを改めて感じます。

内閣の重要政策決定の一端を担いたいという高い志を持った皆さんと働けることを楽しみにしております。

総務部門

有識者・学識経験者等からの提言の取りまとめ業務



ベテラン職員・男性

「門前の小僧」目指して

私は現在、有識者からの情報収集・意見聴取などを担当しています。多くの有識者と日々面談し、その内容につき上司と協議し、至急官邸に報告すべきとの結論に達した場合には直ちに要旨報告を作成します。作成した報告は、情報官が確認した後、総理報告資料となります。面談から総理報告まで、日程によっては1～2日程度のこともあり、大変緊張する瞬間ですが、それが「鮮度の高い」情報を扱っているという充実感にも繋がっています。

面談する有識者の専門は多分野にわたりますが、こちら側が有識者の話を理解できなければ、重要な情報かどうかの判断もできません。このため、日々報道だけでなく、各専門分野の論文や資料をチェックするなどして知識の蓄積を行うことは不可欠で、長距離通勤を生かしての(?)毎朝1時間程度の新聞等の報道チェックはもう20年以上の習慣になりました。入庁してから長期間経ちましたが、今でも、幅広い分野での「門前の小僧」を目指しています。情報分野に関心がある皆さん、私たちと共に切磋琢磨しませんか！

国際部門

国際情勢に関する情報の収集・分析



ベテラン職員・男性

一貫した積み重ねを柱に

私は現在、国際部門で対外連絡調整業務に従事しています。採用前は、大学院で特定地域の研究をしたのち、現地や国内で当該地域に関連する民間の仕事を6年経験しましたが、採用後20年以上経た今も、情報収集・分析業務や在外勤務、海外研究機関での研修も含め、一貫して当該地域に関連する業務に就いてきました。対外連絡調整業務にも当該地域に関係する仕事が多く、その業務量と質的重要性は、世界情勢の激動に比例して飛躍的に増えています。現在の業務を何とかこなすことができるのは、学生時代から培ってきた知識と経験、語学力と人脈があつてこそ、と改めて実感しています。

内調では、一貫して積み重ねてきたことを、状況の変化に応じて、様々な形で応用できる発想や柔軟性を備えた職員をますます必要としています。経験を形にしていける強い意志を持った皆さんが、内調を通じて、これからの我が国を支え続けてくれるように願っています。

分析的中、思わずニヤリ

私は現在、国際部門で特定の分野や地域に関する分析業務を担当しています。当部門の一番の特徴は、分析を報告書としてまとめ、総理をはじめとする政策部門の最高責任者の方々に伝えることを業務の中心に据えていることです。特に、当部門では今現在世界中で発生している事象について公開情報を中心にいち早く収集・分析し、スピード感をもって報告書にまとめることが求められています。

私が国際部門に着任したのは入庁5年目で若輩者でしたが、上司から即時報告資料をまとめるよう指示を受けました。右も左も分からないながらも、これまでの業務で意識してきた過去の蓄積資料の活用、正確な一次情報へのアクセス等を忠実に守ることで、なんとか報告書を完成させることができました。分析の内容が翌日の公刊物の分析と重なった時には思わずにやめました。

当室は年次に関わらず、意欲のある人には常に門戸が開かれています。皆さんと一緒に業務ができる日を楽しみにしております！



若手職員・男性

内閣情報調査室の職員は実際にどのような働き方をしているのでしょうか。
国際部門、総務部門の3名の若手職員の一日に密着しました。



13:00 14:00 16:00 17:00 18:00 19:00 21:00

来日したB国専門家との協議に参加

昼食は簡単に済ませ、B国専門家との協議の準備をする。友好国機関専門家との協議は、新たな分析手法や情報を入手すると同時に、相手国との信頼醸成にとって重要な機会である。早口かつ専門用語が英語で飛び交う中、重要な内容を聞き漏らさないように必死に記録する。協議への参加は自分の知見を広げるという点でも貴重だ。会議の後、先方幹部からGood Jobと賛意をいただいた。苦勞が報われる瞬間だ。

Intelligence Is Bureaucracy

協議の後、早速記録の作成に取りかかる。情報資料は正確さとスピードが命。資料は上司のチェックの後、必要な手続を経て、関係する専門家に内容が共有された。一息ついていると、先輩から資料の翻訳ができたというメールが入った。資料提供の手続に取り掛かる。内調職員といえども行政官。文書作成と必要な諸手続ができてこそ一人前。こんな時、映画でも有名な某国機関関係者が言った言葉を思い出す。

C国大使館でのレセプション

今夜はC国大使館で会合が予定されていたので幹部に随行する。こうした場には既知の関係者も多く参加するので、積極的に話しかけ、興味深い話は記憶する。また、新たな人脈作りも精力的に行う。すると会場内でAを見つけた。軽い挨拶のあと小声で資料が用意できたと伝えると、彼は満面の笑顔になった。明朝受け取りたいという。機関間のみならず、Aとの個人的な信頼関係も強化できたようだ。会合の後、オフィスに戻って資料作成を行い、明日の最終準備を行う。今夜も気持ちよく吞んで帰れそうだ。

13:00 14:00 15:00 16:00 17:00 18:00 19:00

報道、刊行物等のチェック

隙間の時間には新聞や雑誌等の定期刊行物や報道を確認。新聞では、有識者の方々のコメントや解説の欄は要チェック。今日はC国で重要な政治日程があるが、事前に取りまとめた見通しと大方一致して動いており、一安心。入庁当初、「所属する部署によって新聞の読み方がガラリと変わるよ」と教えてもらったが、今後自分の読み方がどう変わっていくのか少し楽しみである。

会合のセッティング

来る有識者との会合についての案内を发出。続いて近日中にある別の会合の最終人数を会場の担当者に連絡。日時、場所、人数は、必ず複数回確認する。会合が連日となる場合は混同しないよう特に注意。最近では、急きょの変更や変則的な対応にも慣れてきた。ただ、慣れはミスを誘いがちなので気をつけなければ。当たり前の仕事かもしれないが、決して疎かにしてはならない。いまだに自分のミスで会合が開催できなくなる夢を見る(苦笑)。

意見聴取・報告書の作成

意見聴取のなかで重要な情報を得る、また、それを判断するためには知識や経験が必要であり、ベテラン職員の方々から日々学ばせてもらっている。結果を取りまとめるに当たって、どうすれば簡潔で分かりやすい文章になるか、視覚的に理解しやすい資料となるか日々試行錯誤である。意見聴取の場にはいない人が即座に正確に理解できる資料となるよう、まだまだ添削してもらいながらの修行中。昨日は添削で上司に多大な負担をかけてしまったが、「今日のは良くできていますね」と言ってもらえた！

13:00 14:00 15:00 16:00 17:00 18:00 19:00

打ち合わせ1

上司と車で打ち合わせ先に向かう。今日は生憎の雨で、道路状況が読めない。早めに出発したものの、混雑に巻き込まれ結局ぎりぎりに到着。何事も事前の準備が大切だと痛感。ロジを円滑に遂行するのは若手に任せられる大事な仕事の一つであり、改めて気が引き締まる。今日のアポイントは、議論が白熱し、30分の予定が1時間に延長。別の担当の業務に被る話題が出たことから、帰庁後、今日の内容を班内に共有。チームで仕事をするので、情報共有は欠かせない。

打ち合わせ2

午前中メールがあったA省との打ち合わせに上司と向かう。電話でやりとりをするより、直接会ったほうがお互いの感触が掴めて、良い落としどころが見つかることもしばしば。今日の打ち合わせはやや難航したが、A省に再検討してもらうことになった。各省との調整は日常業務であり、他省庁の方と一緒に仕事をして刺激を受けることができるのも、行政各部の総合調整機能を担う内閣官房ならではの魅力である。

資料の作成・室内検討

夕方は2日後の大臣レク用資料を作成。担当内で検討を経て、上司の指示を仰ぎ、忙しい大臣が一目見て要点を掴めるような資料を作成するのがポイント。若手のうちから自分の作った資料が大臣の目に留まるというのも、内調ならではの特微であり、上司が大臣に説明しているところを想像しながら、資料の構成を検討。このほか、議員の先生方への説明のために議員会館に行ったり、会議の準備のために官邸に入ったりすること。ニュースで目にする景色に囲まれながら、国家の中心で働いている実感を味わえるのも内調の魅力。

今晩は語学研修に通うため早めに退庁。周囲の協力に支えられ、業務と研修の両立に励んでいる。

情報の世界に15年以上身を置く4名の経験豊富な職員に、内調について語っていただきました。

官邸を支える、陰の“ハレ舞台”

今までに経験した中で、最も思い入れの強い仕事はなんですか。



Dさん

担当地域の情勢が不安定になり、日本としても慎重かつ喫緊の対応が求められた時は、日々資料作成に追われました。限られた時間の中でその情勢に関わる大量の報道をチェックし、必要な情報を抽出、分析したうえで端的に資料にまとめる作業。最終的に官邸に届くと思うと一層神経を使う作業でしたが、こういう仕事こそ内調冥利に尽きると思います。



Aさん

同感です。世界が注目するような状況について今後の展開を予測する作業は、私も思い入れを持ってのめり込んだ記憶があります。情報分析業務の“ハレ舞台”に立つような感覚でした。



Bさん

私たちの“ハレ舞台”は表で脚光を浴びることではないけれど、陰ながら日本を支え、また守っているという自負心はどの職員にもあるんじゃないかな。私たちは情報という分野において、日本を守る最前線に常に立っているといえる。私の場合、一番思い入れの強い仕事は、某国・某組織が悪いことをしようとしていることを未然に防いだこと。日本の安全保障に直結する事案なので詳しくは話せないけど、国内外の関係機関と緊密に協力しながら成功させた時は心の中でガッツポーズをしたよ。



Cさん

自分も安全保障や治安に関する業務に携わったことがあるが、他の業務ではなかなかできない経験ができたと思う。チームには明確な目標があって、やる気に満ちあふれていた。これまで様々な仕事をしてきたけれど、どれも思い入れがある。どれが一番かは決められないかな。

ひと味違った“永田町人生”

これは内調ならではの、といえる特徴をあげてください。まず、組織の性格から見てどんなことが言えますか？



Aさん

情報機関でありながら、政策部門の息づかいを間近に感じられる点ですね。他の情報系の官庁にはない特徴でしょう。

よく言われる理論ですが、「情報」の担い手と「政策」の担い手は明確に区別され、その間には厳格な境界線が引かれます。しかし内調では、境界線の向こう側の息づかいが感じられます。内調の特徴として、よく“官邸との距離の近さ”が挙げられますが、「情報」に特化した機関でありながら、「政策」の担い手である官邸の息づかいを間近に感じられる距離にある、この絶妙なポジショニングは、他の情報系官庁にはない、内調ならではのものでしょう。ひと味違った“永田町(≠霞ヶ関)人生”が楽しめると思います。



Dさん

“官邸との距離の近さ”に関連してもうひとつ特徴をあげるなら、それはオールジャパンの視点で仕事ができるということ。私たちが意識するのは、「官邸がその問題をどう捉えるか」「我が国にとり何が重要か」という視点。政策官庁内に置かれた情報部門のように、特定の政策や分野に縛られることはありません。一つの問題について国際関係や国内外経済、我が国の社会事情等様々な側面から考察することが大切だと思います。



Cさん

たしかに、“官邸との距離の近さ”は内調の様々な面にかかなり強く影響していると思う。自分の収集・分析した報告書が直接総理大臣の目に触れる機会があるというのも、他省庁ではなかなかできない経験だしね。でも、それは同時に怖さでもある。以前、官邸幹部が自分の作った資料に誤字を発見したと聞いたときは背筋が凍った。江戸時代なら切腹していたかも…。

内調プロパーであることの特典という意味では、なにか他にありますか。



Aさん
採用25年以上・男性

長年国際部門での分析業務に従事しているベテラン職員



Bさん
採用25年以上・男性

安全保障関連の業務に長年従事してきた大ベテラン



Cさん
採用20年以上・男性

確実な調整で内外から絶大な信頼を集める、内調の大先輩。徹底したリアリスト



Dさん
採用10年以上・女性

国際部門の分析業務に携わる、地域分析のスペシャリスト。気さくで頼れるお姉さん



Dさん

海外の研究機関への派遣制度があることで
すね。私も行った経験があるのですが、単独
海外ほぼ飛び込み営業(しかも英語)でネット
ワークを広げ、その国のシンクタンクを訪ね
歩き、有識者と意見を重ねました。本当に貴重な経験で、その
後の業務にも役立っていると感じます。



Bさん

たしかに、国内外問わず様々な関係者と接す
ると、それぞれに専門性がある非常に勉強
になるよね。特に海外の関係者と接すると、日
本を取り巻く安全保障環境と、それに対応する
ための日本の態勢を考えさせられる。その意味では、**内調が
日本の情報コミュニティの中心にいることはひとつの強みだ**
と思う。それだけ接する人も情報も多いということだから。



Aさん

(職場の面白さという意味で)一般行政事務と
趣を異にする内調の仕事を、「新聞記者」「学者」
「商社マン」になぞらえる言い慣わしがありま
す。「雑誌編集者の」「映画制作・脚本家的」「コ
メンテーター的」などを付け加えてもいいかもしれません。い
ずれも調査力、行動力、構想力などが求められる仕事です。**各
職員が、“役人的”な型にはまらずに、日々、洞察力と表現力
を発揮しているところが内調のおもしろいところでしょう。**



Bさん

それは言えているね。そのほかにも、何のた
めの情報か、何のための情報収集であり分析
なのかを常に意識し、時宜にあわせた最良の
ものを提供しようとする矜持を持つことがブ
ロとして重要だと思う。



Aさん

そうですね。ユーザーは常に多忙で多様な問
題を処理すべき立場にあります。**情報はユー
ザーの関心に合致し、活用されてこそ有効。**
情報のプロフェッショナルとはこの原則に従
い、彼らに簡潔に、そしてできればおもしろく、拾い集めた「事
実」が物語る「意味」を説明できる技術者のことだと考えます。



Dさん

「技術者」という言葉に同感です。前提として
社会の動きに幅広く関心を持つこと。その上
で、一つのインフォメーション(生の情報)を
いかに入手し、検証・加工し我が国が持つべき
「インテリジェンス」に仕立て上げるか。その技術を習得する
ことがこの世界のプロになる道だと思っています。

最後に、これから入ってくる新人職員へ メッセージを



Bさん

普通の公務員人生では味わえない、刺激的
な世界が待っています。興味本位で情報を集
め、分析するものではありません。私たちの故郷
や家族、日本の安全を保ち未来につなげる誇
り高い仕事です。そうした気概を共有できる人材を待ってい
ます。



Aさん

かつて、待ち合わせの連絡手段は駅の手書き
の黒板でした。それがポケベルになり、やがて
スマホになったように、世の中も私たちもめま
ぐるしく変化し続けています。しかしたとえ40
年後、あなたがベテラン職員になった時代にも、
変わらず内閣情報官は総理大臣に、あなたが献身的に生
み出したインテリジェンスを報告していることでしょう。そこは
「変わらない」というのが、現時点での当室に関する私の分
析です。

ありがとうございました。

守りと攻めの“相場”を読む

情報の世界でのプロフェッショナルとは、
どんな人のことだと思いますか？



Cさん

あたりまえだけど、口が堅いことは必須。得た
情報をダダ漏れさせていけば信用を失う。ま
た、わずかな気の緩みからでも情報は漏れる
ものなので、常に確固たる保全マインドをも
っていることが重要。ただし、必要なところに必要な情報を伝
えなければ仕事として成り立たないことも事実。**その相場観
がわかる人がこの世界のプロといえる。**

番外編 ～ベテラン職員との一問一答～

15

問1

内調を
目指した
経緯・志望動機は？



Aさん

「直感」

国内外の出来事に関心があり、「なぜなのか?」「関連性はあるのか?」「これからどうなるのか?」と掘り下げるのが好きだった。内調の業務説明会で「ひょっとしたらここが私の職場かもしれない」と感じた。二十年以上も時が経ったが、あの直感は間違っていないかったと思う。



Bさん

「誇り高い仕事に憧れて」

情報関係の仕事は子供の頃からの憧れの職業の一つだった。目立たないけど、影ながら日本を守るという仕事。胸を張れる誇り高い仕事だと思った。しかも官邸の中枢にあって、様々な最新の情報に接しながら仕事ができるということに高揚したよ。



Dさん

「情報で国家を支えたい」

日本が国際社会の諸問題に対応するための「ヒント」を提供する仕事がしたいと思い、インテリジェンスに興味を持つようになりました。ちなみに採用前は国内の研究機関等である地域の調査研究に携わっていました。

問2

あなたの
内調人生を
一言で表して
ください。



Aさん

「人生の舞台装置」

内調にすることで、私は、行くはずもなかった国へ行き、会うはずもなかった人から影響を受け、自分には難しいと決めてかかっていたようなチャレンジングな課題を知らぬ間に乗り越えてきた。内調は、私にとって、そうしたことを可能にする“舞台装置”であり、重要な“生活基盤”だ。



Bさん

「影ながら日本を守っているという自負」

情報の世界は決して表に出ない裏の世界だけど、実は内調に限らず情報・治安関係の仕事に就いている多くの人達に支えられて今の日本の平和な日常がある、ということ皆さんには知ってほしい。



Dさん

「時代とともに生きる」

自分の人生というより、現役・引退含む先輩方の話を聞くとそう思います。あのとき内調はどう動いたか、どのような秘話があったのか、貴重な体験を皆さんお持ちです。

問3

仕事を通じて
出会った、
最も心に残った
言葉は？



Aさん

「情報は人格である」「ヒト、モノ、カネの動きを追え」「ひとまず『3つあります』と言って、あとはしゃべりながら考えよ」「お上に願い出ても、海外勤務はすべきだ」
ずっと心に刺さり続け、これからも心がけ続けるべき多くの金言がある。



Bさん

「情報は集める人の能力以上のものは集まらない」

つまり、中身の無い人間にはたいした情報は集められない。常に勉強、研鑽し続けると尊敬する大先輩から常に言われたよ。能力とは専門知識だけでなく、収集にせよ、分析にせよ人の成すことを理解するのが情報の世界であり、人間関係、つまり、他者との関係を大切にせよという意味もある。



Cさん

「当て事と禪は前から外れる」

かつての上司の言葉。自分から見ればとてつもなく仕事ができると思える上司も、なかなか自らの思うようにはいかないことが多いのだなぁと感じた。

両立支援(ワークライフバランス)制度

内閣情報調査室では、職員のワークライフバランス両立支援を目的とし、以下の制度の推進に取り組んでいます。

子の出生に係る制度

産前・産後休暇

産前6週間～産後8週間の期間取得可

育児休業制度

子が3歳に達する日までの期間取得可(男女ともに)

「男の産休」制度

配偶者の出産に際し5日～7日間の休暇を取得可

出産費給付

職員又は扶養する配偶者の出産時に、共済組合より給付される(約40万円)

育児に係る制度

育児短時間勤務制度

小学校就学前の子を育てる職員(男女問わず)が、希望する日・時間について取得可

子の看護のための休暇

小学校就学前の子の看護のため、子1人につき年間5日取得可

職場環境整備のための取組

ハラスメント研修

セクハラ・パワハラ防止を目的とした内調独自の研修。全職員対象に実施

コラム

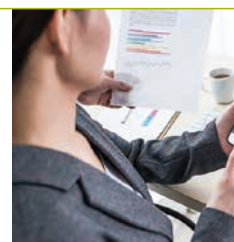
【時間短縮制度を利用する女性職員】 両立できる環境に感謝

国際部門の渉外担当で、主に通訳・翻訳業務を行っています。ベテランの専門家の分析を通(翻)訳するのは、責任の重さを感じると同時に、非常に名誉とやりがいを感じる仕事です。多忙な職場ですが、育児短時間制度を利用して子育てとの両立を図っています。

親が遠方在住のため、日頃の子育ては夫婦二人で行っています。両立の難しさは、想像していたのと同じくらい想像していなかったと

ころにも存在していました。子供の性格の違いや、思わぬ病気など、個々で状況は千差万別です。

結局は、やってみなければわからないというのが現時点の感想ですが、私自身としては、やってみてよかったと思っていますし、それができる環境があったことに感謝しています。



内調職員へのアンケート～ワークライフ・バランスについて～



一年間で取得する有給日数平均

平均 **11.30** 日/年

※有給のほか、3日間の夏季休暇も取得可能です。



おすすめの有給の使い方

- > 日帰り温泉。平日だと空いている
- > 娘とジャニーズのコンサート。歌詞をがんばって暗記します!
- > 夏期休暇とつなげて海外旅行。9月だと安い



繁忙期の乗り越え方を教えてください

- > どんな繁忙期も必ず終わりは来ると言い聞かせる
- > 効率が落ちてしまうため、睡眠時間は削らない
- > 残業代で何を買うか妄想。すべては高級プロテインのため



あなたにとって「休み」とは?

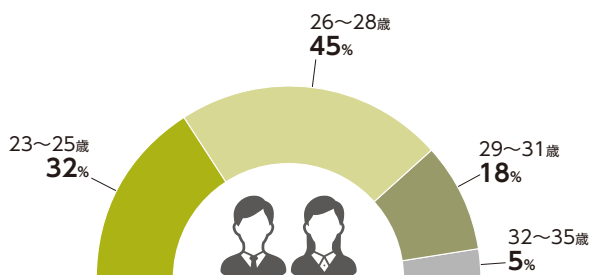
- > 仕事とおなじくらい、人生を充実させてくれる時間
- > がんばった自分へのご褒美!

内閣情報調査室では、多くの若手職員が第一線で活躍しています。

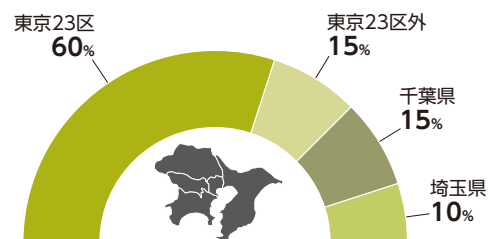
多士済々な若手職員23名の声から、内調で働くあなたのイメージを膨らませてください。



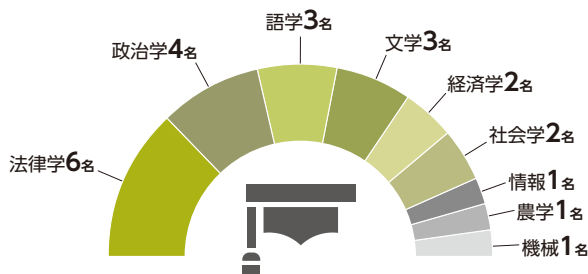
若手職員の年齢構成は？



どこから通ってる？



大学(院)での専攻は？



退庁時間は？

通常期 平均 **19:17**
繁忙期 平均 **23:00**



仕事で落ち込んだとき、
どう乗り越えますか？

「リベンジ」

- > 仕事で落胆したことは、仕事でしか返せない。同じような場面に遭遇した際により正しい回答を導き出せるよう、一層仕事に励みます。

「まずはできることから」

- > 自分に出来ることを見つけてゆっくりでも取り組むと、達成感が得られて少しずつ元気になってます。

「割り切り」

- > ダメなときは何をしてもダメと割り切り、思いっきり休む。他のことで楽しむ！
- > ある程度の気持ちの割り切りは必要と考えるようになりました。
- > 食べログ4以上のお店に行って高くても美味しい物を食べます。



あなたにとって同期とは？

「気兼ねない仲間」

- > 内調は同期間で年齢が違うこともざらにあるが、特に気にせず対等に付き合える雰囲気。気を許し過ぎて家に招くと勝手にピザを注文されていたりする。
- > 仕事やプライベート、くだらないことを話すことのできる仲間だと思います。仕事のやり方からプライベートでの旅行先についての相談などなど。

「力を分け合う」

- > 一緒にランチに行って、午後のエネルギーをもらえる存在
- > 一緒に出張した際、異国の地で久しぶりにサシで飲みに行った。時間としては短かったが、日頃の苦勞を笑い合えたことは新鮮であった。



内調だけの魅力とは？

「経験・機会」

- > 総理レクや記者公表を複数回行ったが、そこに至る他機関や官邸との調整が、難しくもとても刺激的で達成感があった。入庁2～3年で、自分の作った資料を使って上司が、総理や官房長官、大臣等要人に説明し、それらに随行できるというのは大変な魅力だった。
- > 1年目でも海外出張や外国政府との会議に出席する機会もあったこと。やる気があれば若手でも様々な経験をさせてもらえる。
- > 他の一般職採用と違って、1年目から政府中枢・官邸との関わりを強く意識して仕事をすることができる。大量のコピー取り、お茶くみはほとんどやらなくてよい。

「チャンスをつかみやすい」

- > 入室して数年の若手にも海外赴任等のチャンスが豊富。これは、小さい組織の内調だからこそ。

「仕事を通じて知り合える『人』」

- > 内調を選んでいなければ、一生のうちにこの方々と出会える、お話できる機会はなかっただろうなと思うと、それだけで本当に入って良かったと思います。

「業務内容の特殊性」

- > 今、世の中で起ころうとしている、起こるかもしれない事象を扱う点。入ってきた情報を他の情報と紐付けて、その事象を検討することはやはりおもしろい。



モチベーションを高めるために、日頃行っていることはありますか？

「期待に応えたい」

- > 目をかけてくださる内外の人と接する。その方々に恥ずかしくないようにというのがモチベーションです。

「意識の持ち方」

- > 単に仕事をこなすのではなく、自分は誰を見て仕事をしているのか、自分が行った仕事の先に何があるのか、この仕事をやり遂げたときに自分はどう変わることができるか、という視点を持つ
- > 一見些末に見える案件でも、他の業務との関連性を意識すること。

「自己研鑽」

- > 業務で使用する言語の鍛錬は欠かさないようにしている。これからはAIに取って代わられるとの意見もあるが、最終的には人と人との関わり、信頼関係をもって情報業務は成り立っていくものであると考えているので、腐らずに鍛錬していきたい。



休日が潰れるほどはまっている趣味はありますか？

「料理」

- > コスパのいい飯を作ることです。美味しいものを食べたいけど食費は抑えたい…。これは人間なら誰しもがぶち当たる壁、人類の永遠のテーマですね。旬の野菜、クレジットカードのポイントで得た米、鶏胸肉を活かして200円程度で作る飯は格別です！

「ゴルフ」

- > 往年の名解説者ヘンリー・ロングハースト曰く「ゴルフの唯一の欠点は、面白すぎることである」。まさにそのとおり、幾度金欠でやめようと思っても、気づくと週末のゴルフ場を予約している自分がいいます笑

「ホットヨガ」

- > 汗をかいて頭を空っぽにすると、毎日にメリハリが付きます！



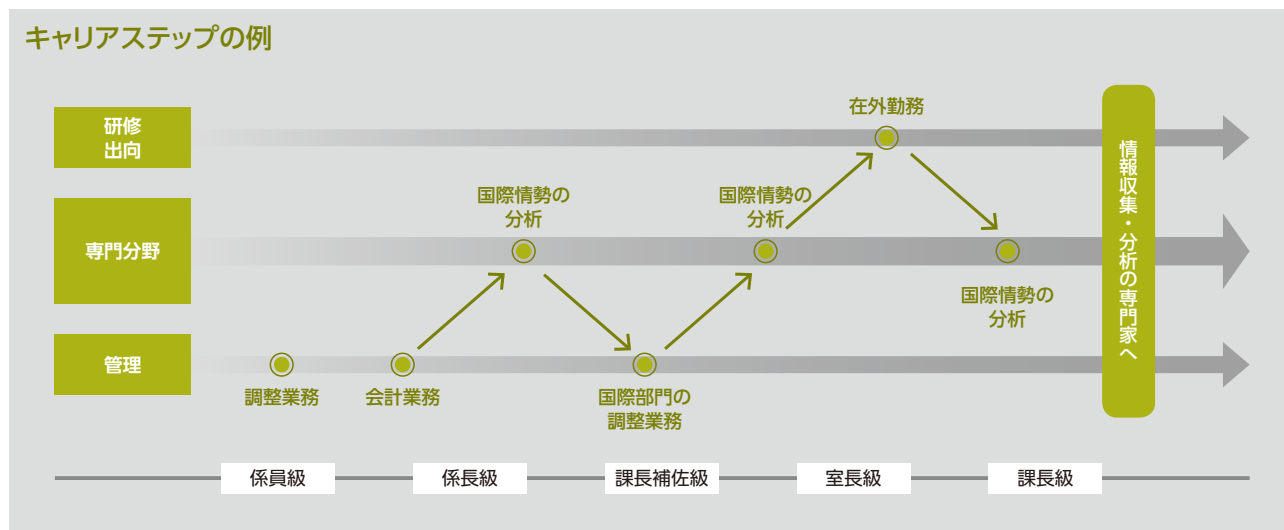
内調を一言でいうと？

- > 現代の御庭番衆
- > 畑(各々が耕して収穫している)
- > 人種のるつぼ
- > uncharted territory(未知の領域)



国の中枢を支える「情報（インテリジェンス）」の専門家の育成を目指し、内閣情報調査室では、他省庁への出向や研修、在外公館勤務等、キャリアアップのための豊富な機会を積極的に設けています。

キャリアステップの例



他省庁への出向

専門性を強化し行政実務経験を積むため、情報コミュニティ省庁（警察庁、公安調査庁、外務省、防衛省）や内閣府等への出向の機会を付与しています。また、内閣衛星情報センターで衛星画像分析業務にチャレンジすることもできます。

語学習得の支援

語学学校への通学補助を行っています。採用3年目から応募することができます。

新任者研修

保全教育に加え、情報機関の役割、各部門の業務を知ることで、日本の情報体制及び内調の全体像を具体的に把握し、当室の主力となる人材の素地を作ることが目的としています。

在外公館勤務

在外公館勤務は国外で多様な人々と触れあう貴重な機会であり、当室職員のキャリアを形成していく上で非常に有益です。希望する職員には積極的に機会を与えています。

研究員派遣制度

人事院の 研修制度（長期在外研究員派遣制度、行政官短期在外研究員等）を活用して、「専門性」に磨きかける機会を設け、職員がスキルアップできる環境を整えています。



内閣官房は原則として各省庁からの出向者で構成されていますが、内閣情報調査室は其中で唯一独自の定期的採用を行っています。

採用数一覧表 ()内は女性

(単位:人)

試験年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度(予定)
行政区分	3(1)	3(2)	3(2)	5(1)	5
技術系区分		1(0)	2(1)		1

※内閣衛星情報センターについては、本室とは別に採用を行っています。平成30年度の採用実績は、行政区分3名、技術系区分3名です。

Question

採用はどのように決定しているの？

職員との面接を重ね、受験者の人柄、企画力、コミュニケーション能力、将来性等を総合的に評価します。業務内容は多岐にわたるため、必要とされる人物像も多様です。

初任給(平成30年度現在)

一般職(大卒程度試験)合格の場合
行政職(一)1級25号俸222,240円
(地域手当、本府省業務調整手当含む)

※大学院卒、社会人経験のある方は俸給月額が加算されます。

賞与(ボーナス)

期末手当、勤勉手当として、年間4.45月分

諸手当

扶養手当、通勤手当、住居手当、超過勤務手当等

勤務時間

原則 9:30~18:15

休日

年次休暇20日間

(4月採用者は、その年の12月まで15日間)

特別休暇(夏季、結婚、忌引等)

※仕事と育児・介護の両立を支援する制度があります。

Question

これまでの採用実績は？

毎年概ね数名を採用しています。公務員削減傾向にある中、業務の重要性から、順調に採用を継続しており、本年度も国家公務員一般職(大卒程度)からの採用を予定しています。

福利厚生

共済組合制度(医療費の給付、診療所、契約施設(保養所等)の補助)、グループ保険制度(団体保険、団体積立)、診療所(内科、歯科)、直営病院(虎の門病院等)での診察、定期健康診断、人間ドック。

このほか、内調職員同士の親睦を深めるためのサークル(野球、フットサル、テニス、ボウリング、プロ野球観戦、ハイキング、町中散策等)がそれぞれ活発に活動しています!

2019年度採用スケジュール

国の総合戦略機能を担う内閣官房は、原則として各省庁からの出向者で構成されていますが、内閣情報調査室は其中で唯一独自の定期的採用を行っています。

4月	5～17日	国家公務員採用一般職試験（大卒程度）受付期間
6月	16日	第一次試験日
7月	10日	一次試験合格発表
		官庁訪問受付開始
	11日	官庁訪問開始
	17日～8月2日	第二次試験（人物試験）日
8月	20日	最終合格発表日
10月	1日	採用内定



2018年11月 株式会社ディスコ主催 キャリ
タス就活フォーラム設置ブース

採用担当者より
メッセージ

業務説明会等の際、参加者の方から「内閣情報調査室に入ろうと決めた決め手は何ですか」という質問をよく受けます。個人的には「国の中枢の組織で働きたい」「調べたりする作業が好きだった」等、いくつかあったのですが、最終的な決め手は「職員の人柄」でした。業務説明会等で魅力的な職員の人柄に触れる度に、「自分を成長させてくれる魅力的な職場ではないか、このような人達と働いてみたい」と感じたことを覚えています。採用後、自分が共に働く職員がどのような人達なのか、決め手となる重要なポイントではないでしょうか。さまざまな情報を扱う内閣情報調査室には、さまざまな能力や専門性を持った魅力的な職員がいます。今、このパンフレットを手にしているあなたに是非、業務説明会に参加していただき、情報を扱う仕事の面白さや奥深さとともに、情報の一線で活躍する当室職員の人間的な魅力にも触れてほしいと思っています。

内閣情報調査室では、随時、独自説明会を開催しています。

説明会の詳細については、内調採用ホームページの更新をチェックしてください。

http://www.cas.go.jp/jp/saiyou/saiyou_index.html（内閣官房ホームページ → 採用情報）



質問は下記の連絡先にお問い合わせください。

■ 内閣情報調査室

採用専用TEL 03(5253)2107

採用専用mail ciro-saiyou@cas.go.jp

■ 内閣衛星情報センター

採用専用TEL 03(3267)9564

内閣情報調査室は、戦後、我が国が再び国際社会の荒波に耐えうるよう、旧総理大臣官邸の小さな一室で産声をあげました。着実に発展の道を歩み、年々組織の重要性が高まっています。

昭和27年 4月9日	第3次吉田内閣	内閣総理大臣官房調査室 (総理府の組織として新設)
昭和32年 8月1日	第1次岸内閣	内閣調査室 (組織変更により内閣官房に)
昭和61年 7月1日	第2次中曽根内閣	合同情報会議を設置 内閣情報調査室 (内閣官房の組織再編により名称が変更)
平成8年 5月11日	第1次橋本内閣	内閣情報集約センターを設置 (緊急な重要情報を24時間体制で収集し、内閣総理大臣等へ報告する)
平成10年 10月27日 12月22日	小渕内閣	内閣情報会議を設置 情報収集衛星の導入について閣議決定
平成13年 1月6日	第2次森内閣	内閣情報官を設置 (中央省庁再編に伴い内閣情報調査室長から格上げ)
平成13年 4月1日	第2次森内閣	内閣衛星情報センターを設置 (情報収集衛星の開発・運用、画像情報の収集・分析)
平成20年 4月1日	福田内閣	カウンターインテリジェンス・センターを設置 (外国の情報機関による情報収集活動から我が国の重要な情報や職員等を保護) 内閣情報分析官を設置 (特定の地域または分野に関する特に高度な分析)
平成26年 12月10日	第2次安倍内閣	「特定秘密の保護に関する法律」の施行 (内閣情報調査室が特定秘密の保護に関する企画及び立案並びに総合調整事務を所掌)
平成27年 12月8日	第3次安倍内閣	国際テロ情報集約室を設置 (国際テロ情報の集約、国際テロ情報の収集調査に関する連絡調整)
平成30年 8月1日	第3次安倍内閣	国際テロ情報集約室に「国際テロ対策等情報共有センター」を設置 (内調を含む関係11省庁と連携し、テロ情報の共有・分析を行う)